

宮坂建設工業が防災推進会議開く

宮坂社長 「安全が最大の利益」

420人参加 ゼロ災害達成誓う



肝に銘じて、これとし一年間を過ごしていききたい」と呼びかけた。続いて、企業表彰と職長表彰

【帯広発】宮坂建設工業は十一日、帯広市内の北海道ホテルで二十三年度防災推進会議を開催した。同社社員や協力会社から四百二十人が出席。労働安全や交通安全、地域防災に関する講話の聴取などを行い、これとし一年間の無事故・無災害を誓い合った。

ついて、「わが社は地域の理解によって世の中に生かされて九十周年を迎えることができた。地域に貢献すること世の中に恩返しすることが使命だと思っいる。職務を全うし、安全が最大の利益だということを行行ったあと、帯広労基署の渡部智博署長が「労働災害防止について」、帯広警察署の野澤和雄交通課長が「交通事故防止について」、また、帯広市消防本部消防課の金津洋平防担当課長が「地域防災につい

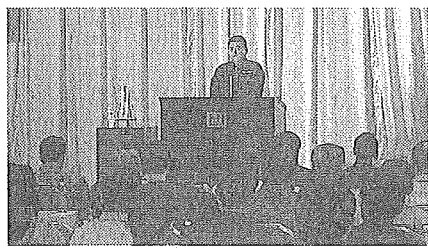
て」と題し、それぞれ講話をした。このあと、同社の総括安全衛生管理者を務める川合一壽常務取締役が「労働安全衛生方針・労働安全衛生

マネジメントシステム」の説明を行った。最後に、同社土木部の中原孝行氏が安全決意を表明し、これとし一年間の無事故・無災害を誓い合った。

防災体制強化へ
安全教育を徹底

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は11日、帯広市内の北海道ホテルで防災推進会議を開いた。関係会社を含め約420人が参加。防災体制を強化するほか、協力会社へ安全教育の徹底で事故防止に一丸となって取



り組むよう求めた写真。

宮坂寿文社長は「震災の影響を考慮して降雨量の基準を見直すなど防災体制の強化を進めたい。協力会社の皆さんも安全教育を通じて安全管理の徹底に協力してほしい」と呼び掛け、地域の安全・安心を守る建設業の役割について話した。

この後、安全に功績のあった協力会社や職長を表彰。渡部智博帯広労基署長と野沢和雄帯広警察署交通課長の講演後、統括安全衛生管理者の川合一壽常務が安全方針などを説明した。

北海道建設新聞

2011年(平成23年)4月13日(水曜日)

東日本大震災への黙とうに続き、宮坂社長があいさつ写真。震災について「この悲劇を恐らく誰も予想しなかったと思う。現地

の状態は悲惨で、被災者は劣悪な環境のもとで日々を過ごしており、まさに困難。わが社は今後も復興に向けて全力を尽くす」と復興支援に向けて引き続き尽力することを説明。その上で、同社がとし創業九十周年の節目を迎えることこ

に続き、宮坂社長があいさつ写真。震災について「この悲劇を恐らく誰も予想しなかったと思う。現地